

＜特別の教科道徳＞

自己の生き方を考え、他者と共によりよく生きようとする児童の育成

～ 道徳的価値のとらえ方と、授業後の児童・教師の取り組み ～

大垣市立江東小学校 教諭 江端 春香

概 要

本校は道徳科の研究推進を始めて4年目になる。児童らも心の温度計に慣れ、スムーズな授業ができています。しかし、道徳的価値を理解し、道徳的実践力が身に付いているとは言えないと感じている。

本研究では、①道徳的価値を多角的・多面的に考えるための教具の工夫②捉えた価値をもとに、主体的に自己の生き方について振り返り、実践意欲を高めるための活動の工夫③教師・児童による個のよさの価値付けや広め方の工夫の3つについて研究を行った。

ミライシード（ベネッセ）を活用し、仲間の意見から学び、授業後も価値を意識続けられるように、マトリックス図を活用して、意識付けを図った。また、仲間のよさを見つけ、交流しあい、一対一でなく複数人から認められるよう、ムーブノートでのコメント機能を活用した。その結果、児童が仲間の良さを見つけることの大切さに気付いた。また、それを学級全体で認め合うことで、一人一人が自己有用感をもつことができるようになってきた。このことは、学級にとって大きな財産となった。

1. 主題設定の理由

(1) 前年度の課題より

本校は、特別の教科道徳の研究推進を始めて、4年目になる。研究主題は、「仲間と学び合い、自己の生き方を考え深めていく児童の育成」である。

前年度、1年生を担当していたとき、振り返りで、「これから～していきたい。」「今もできているので、これからも続けたい。」と書いていても、実際に生活で活かしている児童は少ないと感じた。低学年だからこそ、教師が仕組んでいかないと定着は難しかった。

今年度は、4年生を担当し、ペア交流の場を設けることが多かった。それを取り入れることで、全員が意見を述べることができ、児童全員が価値を深く考えるための有効な手立てであると感じた。しかし、一言話ただけで終わったり、何も話をしていなかったりする児童の姿も見られた。ペアの意見を知ることができても、その他の仲間の意見を知ることができない。発表の場でも一部の児童の意見しか知ることができず、クラスの半分程度の意見を知らずに授業が終わってしまった。

(2) 今年度児童の実態・アンケートより

帰りの会で毎日「よいことみつけ」を行っているが、1～4人のみ手を挙げていることが1学期間続いていた。教師からカードを渡して記入することを指示すれば書くことができることから、よさを見つけていないわけではなかった。「話したい、伝えたい」の気持ちが弱いと感じた。

また、仲間の意見を静かに聞いているが、「〇〇さんに似ている」や、「〇〇さんと違って」など、仲間の意見と比べて発言する児童が少なく、一人一人の意見が単発で終わった。特に、「特別の教科道徳」の授業中は少なく感じていた。

このようなことから、児童の意識を探ろうと、アンケートをとり、表1にまとめた。

【アンケート内容】

アンケート内容	はい	いいえ
①仲間の意見から勉強になったことはありますか？(全教科)	92%	8%
②仲間の意見から勉強になったことはありますか？(道徳)	76%	24%
③仲間のよいところを進んで見つけられますか？	36%	64%
④道徳で勉強したことを日常生活や学習に活かしていますか？	56%	44%

【表1】 研究前アンケート（対象：4年）

アンケート結果から、今年度の児童の特徴について以下にまとめる。

- ・自分の意見を言うだけで満足しており、仲間の意見から学ぼうとする意欲が低い。特に道徳の授業でそれが考えられる。(①②)
- ・教師から指示されて仲間のよさを見つけることはできるが、自ら進んでよさを見つけ、仲間に伝えることができていない。(③)
- ・道徳で学習したことが、その時間のみで終わっており、実生活へ活かすことができていない。(④)

2. 研究仮説

仲間の意見を聞く大切さに気づくことで、仲間のよさを見つけられたり、自己の考えを改めるきっかけとなったりし、道徳的価値を多面的・多角的に捉え、よりよく生きようとする意欲を高めることができるのではないだろうか。

3. 研究内容

【研究内容 1】

道徳的価値を多角的・多面的に考えるための教具の工夫

【研究内容 2】

捉えた価値をもとに、主体的に自己の生き方について振り返り、実践意欲を高めるための活動の工夫

【研究内容 3】

教師・児童による個のよさの価値付けや広め方の工夫

4. 研究実践

(1) 道徳的価値を多角的・多面的に考えるための教具の工夫

「自分の意見を言うだけで満足しており、仲間の意見から学ぼうとする意欲が低い。」(表1①②)という考察から、2点の工夫が必要であると考えた。

【オープンデータによる共有の場の設定】

- ・心の温度計を使い、主発問に対する考えを記入(図1)、その後仲間の記入したことを共有する場の設定。

【図1】 心の温度計記入シート

【仲間の意見から考えたことを記入するシート】

- ・振り返り後に、仲間の意見から考えたことを、いっしょだね(共感)・なるほど(納得)・そうは思わないな(否定)・なんでだろう?(疑問)の4観点で書き込めるシートを作成し、仲間の意見を聞くための基準とした。

【図2】 仲間の意見から学んだことを記入するシート

①実践例 1-1

- ・内容項目：C3「勤労、公共の精神」
働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くこと。
- ・資料名「みかん出し」
- ・内容：外に遊びに行こうとしたら、母にみかん出しの仕事を手伝ってほしいと言われた主人公。いやいや仕事をしていましたが、ふとしたことからみかんに色や形を見つけて、自分なりに楽しみながら仕事をし、あっという間に終わらせた。

＜心の温度計＞「何度も同じ仕事を頼まれたら？」
 「「いいよ！」の立場の考えの人の意見」
 ・その人が困っているのに助けないといけなからです。
 ・何度も頼まれていたら慣れてるから、「コツ」などを見つけて楽しく感じて「いいよ」と言える。

- [「いやだな」の立場の考えの人の意見]
- ・自分も他のことをしたいのにいろいろたのまれるとやる気がでなくなる。
 - ・私だってやりたい事があるし、そんなずっと同じ事をしていると飽きてつまらないから

<主発問>「働くことの良さとは？」

- ・楽しく働くと自分も家族もいい気持ちになる。
- ・働くと満足できるし、ほめてもらえるよさがあると思います。
- ・仕事はイヤイヤやっていると何もいいことがない。

<仲間の意見から>

- ・笑顔で仕事をするという意見を聞いていっしょだと思った。理由は、笑顔で係の仕事をするとみんなも笑顔になるからです。
- ・楽しく働くと自分も家族もいい気持ちになるという意見を聞いて、なるほどと思った、理由は、自分だけじゃなく家族もいい気持ちになると考えられたのがいいと思った。

②実践例 1-2

- ・内容項目：A1「善悪の判断、自立、自由と責任」
正しいと判断したことは、自信をもって行うこと。
- ・資料名「心にブレーキ」
- ・内容：近くの公園までの下り坂を、自転車ですごいスピードを出して下る主人公が、おばあさんとぶつかりそうになり、自分のしたことを見つめ直す。

<心の温度計>「してはいけないことに誘われたら？」

- [「断る」の立場の考えの人の意見]
- ・もしかしたら危ないことをしてしまって、大変なことになるから。
 - ・楽しいからいっしょに行こうよという気持ちがあるから。だけど子供だけでいくのは怖い。
- [「一緒に行く」の立場の考えの人の意見]
- ・自分だけ仲間外れになるのはいやだ友達がかわいそうだし、危険なことにつながるなんて思っていないからです。

<主発問>「バスで遠くへ行こうと誘われたら？」

- ・用事があるから行かない。
- ・危なそうだからやめとく。

- ・バスで事故したらいやだから行かない。今度大人と行こうね。
- ・お母さんにだめって言われてるから。

<仲間の意見から>

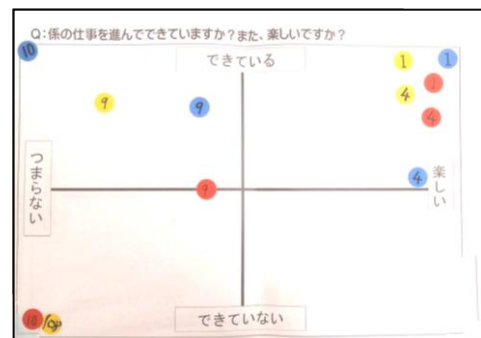
- ・自分だけ仲間はずれになるという意見を聞いて、なるほどと思いました。理由は、行きたいけれど、行ったら危ないかもしれないし、行かなかったら仲間はずれになるからです。
- ・大人と今度行こうねという意見から、なるほどと思いました。理由は、そうすればまた今度遊べるし、優しい言葉だからです。
- ・お母さんにだめだと言われているという意見を聞いて、なるほどと思いました。理由は、強く言っていないからです。

(2) 捉えた価値をもとに、主体的に自己の生き方について振り返り、実践意欲を高めるための活動の工夫

「道徳で学習したことが、その時間のみで終わっており、実生活へ活かすことができている。」(表1④)という考察から、日々の意識付けが必要であると考えた。そこで、次のような活動に取り組んだ。

【道徳的価値に対する自分の達成度の視覚化】

- ・マトリックス図(表2)を使って、道徳的価値の達成度を視覚化し、掲示。授業前(赤シール)・授業翌日(黄シール)・一週間後(青シール)での変容を見る。



【図3】 マトリックス図1 グループ結果

①実践例 2-1

「みかん出し」の内容項目は、「勤労、公共の精神」である。授業内で大きく考えたことは2つである。

- ① 自分の仕事を行えているか。
- ② 仕事を楽しんでできているか。

物語の主人公は、みかんに色や形を見つけて、自分なりに楽しみながら仕事をし、あつという間に終わらせた。そこで、自分たちの仕事を楽しく行うための工夫を授業後考え、実践した。

<児童の考え>

- ・健康観察の後に温度当てクイズを行う。
- ・植物に水をあげるときに、コーヒーを注ぐようにする。
- ・電気をつける時に、クイズのボタンを押すようにする。

<図の変容（授業前→1週間後）>

「係の仕事を進んでできていますか？また、楽しいですか？」

上昇（できている・楽しい）：16人
 停滞：6人
 低下（できていない・つまらない）：0人

②実践例2-2

「心にブレーキ」の価値項目は、「善悪の判断、自立、自由と責任」である。授業で大きく考えたことは下記の2つである。

- ① 自分の弱さに負けていないか。
- ② してはいけないことはいけないと瞬時に判断できているか。

主人公が、おばあさんとぶつかりそうになり、自分のしたことを見つめ直す。そこで、自分の心にブレーキをかけるためにはどうすると良いかを考えた。

<児童の考え>

- ・自分が危ないと思ったことは断ったり、やめたりする。
- ・大人に一度聞いてみる。
- ・周りの人の立場を考えて行動する。
- ・自分の甘さに負けず、一度考える。

<図の変容（授業前→1週間後）>

「自分の弱さに負けず、すぐ正しいことができていますか？」

上昇（できている・素早く）：5人
 停滞：12人（内右上9人）
 低下（できていない・悩む）：5人

(3) 教師・児童による個のよさの価値付けや広め方の工夫

「教師から指示されて仲間のよさを見つけることはできるが、自ら進んでよさを見つけ、仲間に伝えることができていない。」（表1③）という考察から、何を

良さとして書けばいいのかわからない、普段から良さを見つけようという意欲がなく、帰りの会で瞬発的に考えて発表をしないといけなくなっていると考えた。そこで、このような活動を行った。

〔教師からの「よいこと見つけ」〕

- ・どのようなことが良いことなのかを明確にし、児童が仲間のよさを見つけるための例を示す。

〔「よいこと見つけ」の時間の確保〕

- ・週に1時間、学活で「よいこと見つけ」の時間を確保し、じっくりと認め合う時間を設ける。

①実践例3-1

教師からの「よいこと見つけ」

10月5日（火）～10月8日（金）の4日間、Google classroom に教師からの「よいこと見つけ」を書き込んだ。帰りの会で仲間が発表したことと、教師が見つけたことを記入した。

<例>

- ・掃除の時間に私語をしていた3年生に声をかけ、集中してやるように言っていた
- ・健康観察の時に、係の仕事を工夫して取り組んでいた
- ・学級代表としてみんなが挨拶をもっとできるように行動していた

②実践例3-2

「よいこと見つけ」の時間の確保

毎週金曜日に、学活で「スーパーよいこと見つけ」という時間を設け、1週間で見つけた「よいこと見つけ」を伝え合う活動を行った。ムーブノートを活用し、25分間、できるだけ多くの仲間の良さを書いた。書くときには、その週に道徳で取り扱った価値を「よいこと見つけ」をするときに視点として与え、マトリックス図（研究内容2）と関連付けた。また、残り20分間でコメント機能を活用し、仲間の見つけた良さに対してコメントをし、一つの良さを複数人で認め、励ました。多いときには、クラス全員で100枚以上のよさを記入することもあった。

<児童の意見>

みかん出し（係の仕事をしている様子からよいところを見つける。）

・いつも3分前学習でタブレットを使って問題を作っていたのすごいいいと思いました。

・いつも決まった時間にポストを見に行ったりプリントを配ったりしてくれてありがとう。

・温度当てゲームをしたりして健康観察の時間を楽しくしていたので良いなと思いました。

心のブレーキ（正しい行いをしている人を見つける）

・授業が終わるとすぐタブレットをしまっていたので良いなと思いました。

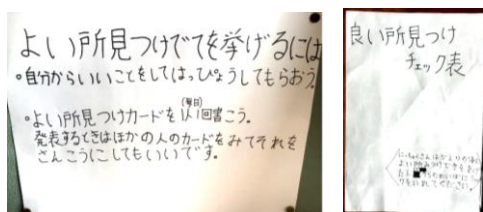
・いつも切り替えて行動するところが素晴らしいです。これからも頑張ってください。

・だめ名ことをしている人がいたらすぐに注意するところが素晴らしいです。

・中休みが終わってすぐ授業モードになっていたのすごいいいと思いました。

・同意見です・明日も頑張ろう・わたしもすごいいいと思いました！・すごいですね！（仲間の考えへのコメント）

③実践例3－3児童の自発的な動き



【写真1】 ポスターとチェック表（児童作成）

毎週1時間よい所見つけの時間を確保してはいるものの、帰りの会の「よいこと見つけ」の時間には、手が挙がらずいた。それを見ていた一人の児童が、改善したいと思い、国語科「クラスみんなで決めるには」で、学級会の議題にした。クラス全員で考えて終わりではなく、毎朝よいこと見つけカードを配ったり、チェック表やポスターを作ったりして、クラスに働きかけた。（写真1）それにより、児童らは毎日仲間のよさを見つけ、カードに記入し、帰りの会でも手が挙がるようになった。また、以前は発表できる人数を2人と制限していたが、全員当ててほしいという意見

が挙がり、手を挙げた全員が発表できる場となっている。

5. 成果と課題

(1) 授業実践より

【研究内容1】について

○ICTを活用し、全員と考えを共有することで、様々な意見を知ることができるようになった。そして、より多角的に問いに対して考えることができるようになった。

○仲間の意見から学んだことを振り返り後に記入することを事前に伝えておくことで、児童も仲間の意見をよく聞いていないとカードが書けないという意識をもつことができた。以前より仲間の顔を見て意見を聞こうと、より耳を傾けることができた。

○実践例1と実践例2のカードの記入内容を比較すると、「なるほど」を選ぶ児童が増えた。仲間の意見を聞いて、自分に取り入れようとすることができ、仲間の意見から学ぶおもしろさに気付き、学ぶという意欲が高まった。

●物事を広い視野から捉えやすい題材の時に仕組むとよい

【研究内容2】について、

○教室で掲示することにより、日常生活と授業を関連づけることができ、視覚化することで、前に貼った位置よりも良い位置に貼りたい、という意欲に繋がりが、主体的に自己の生き方を振り返り、実践する意欲を高めることができた。

●実践2－2では、最初から「できている。」と回答した児童が9人おり、変容が見られなかった。「最初からできている。」「やっている。」という児童の成長を見るために、その考えの根拠を尋ねたり、仲間の考えについて考えさせたりして、自分の弱さを見つめられるようなマトリックス図の作成が必要だと考える。

【研究内容3】について

○教師が一人一人の多様性をよさとして認め、価値付けることで、誰にでも良さがあることに気付かせることができた。

○「よいこと見つけ」の時間を確保することで、仲間のよさを見付け、理解し、認

め合うことができた。また、学級目標につながる価値項目を重点とすることで、児童がお互いに仲間のよさを認めやすくなった。

- 児童自身や学級の課題意識をもつことで、クラスに働きかけ、クラス全体で解決していこうと主体性が育った。
- 公平に「よいこと見つけ」がされるには、ルールや見届けが必要である。

(2) アンケートより

研究前に行ったアンケートを再度行った。すると、以下のような結果になった。

アンケート内容	はい	いいえ
①仲間の意見から勉強になったことはありますか？（全教科）	92%→ 100%	8%→ 0%
②仲間の意見から勉強になったことはありますか？（道徳）	76%→ 96%	24%→ 4%
③仲間のよいところを進んで見つけられますか？	36%→ 80%	64%→ 20%
④道徳で勉強したことを日常生活や学習に活かしていますか？	56%→ 75%	44%→ 25%

【表2】 研究後アンケート（対象：4年）

全ての項目において、よい方向へと改善されている。①②では、仲間の意見から勉強になったと感じている児童がほぼ全員となった。これは、道徳科だけでなく、どの教科でも仲間の意見を聞こうという意識が高まった。特に、③では、仲間のよさを進んで見つけられるという児童が大幅に増えた。このときに追加で2つの質問をすると、以下のような回答があった。

- ① 自分のことを書かれた時、どのような気持ちになるか
 - ・嬉しい。
 - ・自分のことをちゃんと見てくれてたんだ。
 - ・頑張ってきてよかった。
 - ・学級の仲間として認められている。
- ② 仲間のことを書いている時、どのような気持ちになるか
 - ・あの子はすごいな。
 - ・これからも続けてほしい。
 - ・もっと色々なことを書きたい。
 - ・喜んでくれるかな。
 - ・頑張っていてすごいね。

このことから、書かれたら嬉しいのは予想できていたが、書く側も、「喜んでほしい」「すごい」といった温かい気持ちで書いていることを知ることができた。また、「自分もこんな風になりたい」と憧れをもち、仲間のよさを取り入れることができていた。

6. 終わりに

森岡（R3.9）は、著書の中で、「道徳の授業は種をまくためにある～「水やり」は、具体的に言うと、教師の声かけや価値付けなどになります。」と述べている。

道徳で学んだことを生活で活かしていくために、今後も道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習方法を学び続けたい。また、よいこと見つけを通して、仲間の良いところを認め合うことの良さに気付くことができたので、今後の学級づくりにも活かしながら、日常生活の中で、道徳的な判断力、心情とを結びつけることが必要だと感じた。そして実践へと結びつけたい。

7. 参考文献

- ・「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説特別の教科 道徳編」（平成29年7月 文部科学省）
- ・明治図書「おもしろすぎて授業したくなる道徳図解」（令和3年9月 森岡健太）

<講評>